

## 環境保全促進事業『藻場を守り育てる』 事前潜水調査

### 1. 平成23年7月28日（答志島・菅島）

#### 【答志島】

当日は、うねりを伴う海況で、海底はやや砂が舞い上がるような状態であった。

周辺は干潮時には干出するような岩があり、それらにはアラメなどが濃く繁茂している。水深は沖方向へなだらかに増しているが、高さを有する岩礁はいたるところに点在している。これらに繁茂する海藻は水深2m程度まではアラメが優先し、それ以深にはカジメが優先して繁茂し良好な海中林を形成している。

下草類としては、緑藻類のエビアマモが目立っていた。その他紅藻類のユカリ及びテングサ科の種が比較的多く繁茂している。ここでの石灰藻類は比較的少なく、磯焼け状態には至っていない。

海底において見られる生物相はアワビやサザエ及びバテイラなどの貝類をはじめ、魚類ではクロダイ・ササノハベラ・ウミタナゴ・メバル・ソラスズメダイ及びハゼ科のチャガラなどが見られた。その他、アミエビの仲間などが群れで認められた。また、マダコは1個体確認し、ヒトデ類やウニ類は少なかった。



「アラメ群」

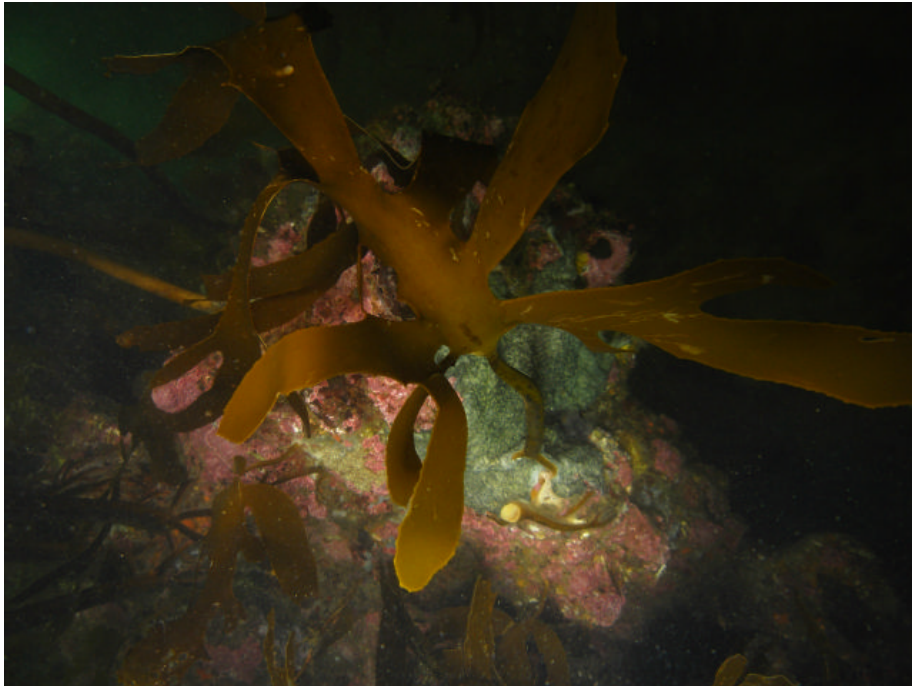
## 【菅 島】

答志島と同様うねりを伴う海況で、水深がやや深く、堆積した砂地の海底はうねりで砂が舞い上がるような状態であった。

周辺は集中するように高低差のある岩があり、それらにはカジメなどが濃く繁茂し、良好な海中林を形成している。水深は沖方向へなだらかに増しているが、岸近くから沖方にかけて高さを有する岩礁が点在している。これらに繁茂する海藻はカジメが優先し、浅い頂上部にはアラメも認められた。

下草としては緑藻類のエビアマモやハイミル及びタマゴバロニアなどが若干数分布し、褐藻類のホンダワラ科の種も少なかった。その他、紅藻のユカリ及びテングサ科の種は比較的多く繁茂している。ここでの石灰藻類は少なく、磯焼け状態には至っていない。

海底において見られる生物相のうち有用種は若干のアワビとサザエなどの貝類で、魚類はキュウセン・ササノハベラ・ウミタナゴ及びメバルなどが見られた。その他、ヒトデ類及びウニ類などは比較的少なく感じられた。



「カジメ類」

## 2. 平成23年8月18日（石鏡町・国崎町）

### 【石鏡町】

当日はうねりも小さい穏やかな海況であった。場所はホテル「ジ・アース」の真下における岩礁地帯で、穏やかに海藻が揺らめく状態であった。

周辺は干潮時には干出するような岩が多数あり、それらにはアラメなどが濃く繁茂している。水深は沖方向へなだらかに増しているが、高さを有する岩礁はいたるところに点在している。これらに繁茂する海藻は水深3m程度まではアラメに優先し、それ以深にはカジメが優先して繁茂し良好な海中林を形成している。

下草類としては緑藻類のエビアマモ・シオグサ科・ハイミルなど、褐藻類はサナダグサ科・ホンダワラ科などが若干数繁茂している。紅藻類はユカリ及びテングサ科の種が比較的多く繁茂しているが、石灰藻類は比較的少なく、磯焼け状態に至ってはいない。

海底において見られる生物相は若干のサザエ及びバテイラなどの貝類をはじめ、魚類ではアカエイ・クロダイ・キュウセン・ウミタナゴ・メバル及びソラスズメダイなどが見られた。その他、ヒトデ類やウニ類は少なかった。



「カジメ群」



## 【国崎町】

調査地点は東よりの風が強く、海面は波立った海況で、海底でもうねりを伴うような状態であった。

国崎地先では禁漁区に指定されている幼稚仔保育場周辺で、平坦な砂礫が沖側にあり中央部などには高さのある岩礁なども点在する。これらの岩の浅い地点ではアラメが濃く繁茂している。沖方向では砂礫の海底にコンクリート製の魚礁が設置され、これにはカジメが繁茂していた。周辺の高さを有する岩礁は底部ではカジメが繁茂し、頂上部でアラメが繁茂する状態にある。これらは全体に良好な海中林を形成している。

下草としては他紅藻類のユカリ及びテングサ科の種が多く繁茂している。特に幼稚仔礁として設置されているFRP製の蛇籠礁にはヒラクサなどの紅藻類が多く認められた。石灰藻類は全体に少なく、磯焼け状態に至っては無い。また、当地点の冬季は浅い海域にホンダワラ類が多く繁茂するが、夏季はこれらは認められない。

海底において見られる生物相は、当地点が禁漁区であり人工種苗のアワビが放流されていることから、アワビやサザエ及びバテイラなどの貝類が多い。しかし、海藻を食すウニ類は比較的少なく感じられた。魚類ではキュウセン・ササノハベラ・ウミタナゴ・メバル・ソラスズメダイ及びハゼ科のチャガラなどが見られた。その他、ヒトデ類はアカヒトデやイトマキヒトデ及び石の裏側などにクモヒトデなどが認められたが、特別多い状態ではなかった。



「アラメ群」

### 3. 平成23年8月27日（浦村町）

#### 【浦村町】

##### ①ノージリ

当日はうねりも小さい穏やかな海況であった。小さい砂浜が点在する岩礁地帯であった。

周辺は干潮時に干出するような岩はあまりなかった。海岸線付近は天然岩盤からなっており、沖方向へなだらかに水深が増していた。海底は主に砂地でところどころ天然岩盤が露出していた。砂地には緑藻類のアナアオサが繁茂しており、海産被子植物のアマモも多く見られた。また同じく海産被子植物のウミヒルモの群落も見られた。

下草類は比較的少なかったが、緑藻類のミル・シオグサ類、褐藻類ではヒジキ・イシゲ・シワヤハズ紅藻類ではマクサなどが天然岩盤上に生育していた。石灰藻類は比較的少なく、磯焼け状態ではない。

海底において見られる生物は、スジハゼ・ヒメハゼ・メジナ・ヨウジウオ・オクヨウジ・ハオコゼ・アミメハギといった魚類、ツメタガイ・カニモリガイ・クダマキガイ・アサリ・ハマグリ・カガミガイ等の貝類、ハスノハカシパン・モミジガイ等の棘皮動物類等が見られた。



## ②大村島

当日はうねりがほとんどない穏やかな海況であった。場所は小さな砂浜で両側が岩礁からなる磯であった。

周辺は干潮時に干出するような岩が多数あり、それらにはヒジキが生育していた。水深は沖方向へなだらかに増しており、高さを有する岩礁は比較的少なかった。海底は砂地、天然岩盤からなっていた。砂地上には海産被子植物であるアマモおよびウミヒルモの小さいが密度の高い群落が見られた。岩盤上にはサガラメは見られず、カジメが繁茂していた。

下草類としては緑藻類のシオグサ・タマゴバロニア・ハイミルなど、褐藻類はウミウチワ・シワヤハズ・ホンダワラがよく見られた。紅藻類はユカリ・ツノマタ・マクサ・ヒラクサが多く見られ、石灰藻類はウスカワカニノテ・ヘリトリカニノテ・フサカニノテ、無節サンゴモも多く見られたが磯焼け状態ではなかった。

海底において見られる生物としてはメジナ類の幼魚、メバル・ヘビギンポといった魚類、イボニシ・レイシガイ・アカニシ・イソバショウ・オオウヨウヨウラク・コシダカガンガラ・トコブシ・シマメノウフネガイ等の貝類、ヨツアナカシパン・モミジガイ等の棘皮動物類、腔腸動物はムラサキハナギンチャク・タテジマイソギンチャク・オヨギイソギンチャク・ヨロイイソギンチャク等が見られた。

